

## 37. 学内宿泊施設（文京荘）の無料開放

（学外対応分）

### 実施時期又は期間

平成23年3月15日～3月20日

### 対応部局及び人員

財務部の職員

### 実施の背景・目的

地震発生日の翌日が後期日程の試験日であったため、遠方から来た受験生等は交通手段がなくなり帰宅困難となった。この帰宅困難者10人（岩手県や福島県の受験生9人と保護者1人）への対応として、弘前大学文京荘を宿泊先として無料提供し、食事や当座の生活を心配なく過ごせるようバックアップした。

### 実施概要

各日の宿泊者数は次のとおりである。

3月15日 10人、3月16日 4人、3月17日 4人、3月18日 4人、  
3月19日 4人、3月20日 2人（延べ28人）

### 効果又は結果

東日本大震災の影響による帰宅困難者が無事帰宅するまでの約一週間、安心して過ごせる環境を最優先で提供した。

### 今後の課題

東日本大震災のような大規模災害等が発生した際に、当該宿泊施設を被災者等の仮宿舎として利用することを想定し、緊急対応としての物品調達等を計画的に整備する必要がある。

### 担当部局名

財務部財務企画課

### その他参考となる事項

（東奥日報記事 2011/3/15）

弘前大学は、入学試験のため弘前市を訪れ、東日本大震災の影響で自宅へ帰れない受験生について、15日から、同市にある同大宿泊施設「文京荘」への受け入れを始めた。初日は被災地の岩手、福島両県の受験生9人と保護者1人が宿泊した。受験生は12日の試験に合わせて11日ごろから弘前入り。震災で交通機関がまひ状態になったため、市が開設した避難所に宿泊。市によると、避難所の利用者は最多の12日には約100人に上った。

## 被災学生宿泊状況

### 文京荘宿泊費

2011年3月	15日	16日	17日	18日	19日	20日	人数合計 …①	宿泊費…② (1泊1人当たり)	合計 (①×②)
201	2人	2人	2人	2人	2人	2人	12人	¥1,900	¥22,800
207	2人	2人	2人	2人	2人		10人	¥1,900	¥19,000
101	2人						2人	¥1,600	¥3,200
102	2人						2人	¥1,600	¥3,200
103	2人						2人	¥1,600	¥3,200
計	10人	4人	4人	4人	4人	2人	28人		¥51,400

※備考 16日 : 201から2人、101から2人、102から1人、103から1人チェックアウト。  
102と103から1人ずつ201へ部屋移動。  
20日 : 207から2人チェックアウト。

◆上記の宿泊費 51,400円については、大学負担とした。

(参考) 朝食代は通常 1食500円のところを 350円で提供した。(利用者負担)  
(350円×28人分=9,800円)